

## 北海道教育推進会議高等学校専門部会（第6回） 議事録

### 1 日時

令和5年（2023年）1月25日（水） 10：00～11：30

### 2 場所

Web会議システム「ZOOM」による開催（事務局：道庁別館4階 第3研修室）

### 3 議事

「これからの高校づくりに関する指針」改定版（案）について

### 4 会議資料

資料1 「これからの高校づくりに関する指針」改定版（案）検討資料

資料2 「これからの高校づくりに関する指針」改定版（素案）についての意見募集結果

資料3 「これからの高校づくりに関する指針」改定版（素案）に関する関係団体からの意見等

資料4 これからの高校づくりに関する指針改定版（素案）に係る意見を聞く会における主な意見等

### 5 出席者

#### ○ 北海道教育推進会議高等学校専門部会

間嶋委員（部会長）、篠原特別委員、藤村特別委員、山田特別委員、萩澤委員、金田特別委員、金井特別委員、近江特別委員、松岡特別委員、原田特別委員、裕特別委員

#### ● 事務局

堀本学校教育局長、谷垣道立学校配置・制度担当局長

高校教育課：山城課長、岡内担当課長、田原課長補佐、小倉課長補佐、山根主査

#### （田原課長補佐）

- ただ今から、第6回北海道教育推進会議高等学校専門部会を開会します。開会に当たりまして、学校教育局長 堀本から挨拶申し上げます。

#### （堀本学校教育局長）

- 専門部会の開会に当たり一言御挨拶申し上げます。皆様方におかれましては、日頃から本道教育の推進に御理解、御協力をいただいておりますことに、心からお礼申し上げます。また、御多用の中御出席いただき、重ねて感謝申し上げます。

さて、前回の本部会におきましては、「これからの高校づくりに関する指針」改定版素案の作成に向け、関係資料に基づき、様々な観点から多くの貴重な御意見をいただいたところであり、いただいた御意見等を踏まえ、昨年9月に改定版素案を公表したところです。

本日は、改定版素案について、広く道民の皆様から御意見等を伺うため実施しました「パブリックコメント」でお寄せいただいた御意見や管内ごとに実施した「意見を聞く会」でいただいた御意見、関係団体からの御意見などについて説明させていただくとともに、これらの御意見等を踏まえて作成した改定版指針の案について、素案からの変更点などを中心に説明させていただきます。御協議、御意見を伺いたいと考えております。

本部会の開催については、本日の協議をもちまして最後の機会とさせていただきたいと考えております。委員の皆様には、それぞれのお立場から、忌憚のない御意見を賜りますよう、お

願ひ申し上げます。本日は、よろしくお願ひします。

(田原課長補佐)

- 本日の日程ですが、このあと議事となりますが事務局から説明させていただき、その後質疑・応答とさせていただきます。

続いて、本日の配付資料の確認をさせていただきます。本日の次第及び出席者名簿のほか、資料1「これからの高校づくりに関する指針」改定版検討資料、資料2「これからの高校づくりに関する指針」改定版(素案)についての意見募集結果、資料3「これからの高校づくりに関する指針」改定版(素案)に関する関係団体からの意見等、資料4「これからの高校づくりに関する指針」改定版(素案)に係る意見を聞く会における主な意見等です。

出席者名簿について一部訂正があります。間嶋部会長、原田委員、藤村委員の3名については、名簿の右端「出欠」の欄において「会場参加」となっていますが、悪天候によりオンラインでの参加となります。また、篠原委員についても現在会場に移動中ということで、オンラインでの参加となります。訂正は以上です。11時30分には終了したいと考えております。どうぞ、よろしくお願ひいたします。それでは、議事に入ります。議事進行については間嶋部会長にお願ひすることとしております。よろしくお願ひします。

(間嶋部会長)

- それでは早速議事を進めていきたいと思ひます。これからの高校づくりに関する指針改定版(案)について、事務局から説明をお願ひします。項目ごとに区切って説明、意見としたいと考えております。まず、「はじめに」、「I 指針の趣旨等」、「II 地域とつながる高校づくり」について説明をお願ひします。

(山城高校教育課長)

- 資料に基づいて項目立てて説明をさせていただきます。「これからの高校づくりに関する指針」改定版(案)の説明に先立ちまして、改定版の素案に対する意見等をまとめた資料がございますので、説明させていただきます。資料2～4を御覧ください。

関係団体や道民の方々から広く意見を伺うため、パブリックコメントや意見を聞く会を実施したところであり、資料2については、パブリックコメントでの意見、資料3については、関係団体からの意見、資料4については、意見を聞く会での意見をまとめたものです。

改定版指針で予定している構成ごとに意見を取りまとめ、案の検討を進めさせていただきました。

時間も限られていることから1つ1つの意見については説明いたしません、それぞれの意見に対する道教委の考え方や回答内容を表の右側に示したところでは。

資料2から資料4についての説明は以上となりますが、道教委の考え方等について、御意見等があれば、この後説明する資料1のそれぞれの項目の御意見をいただく際に併せてお願ひします。

それでは「これからの高校づくりに関する指針」改定版(案)について、資料1に基づき説明いたします。

左側に素案の本文、右側に事務局案の本文を記載し、変更箇所について、下線で示しております。目次順に説明し、それぞれ御意見等を伺っていきたくと考えております。

まず、2ページの「はじめに」及び3ページI、「指針の趣旨等」についてですが、素案からの変更はありません。

資料Iの4ページをお開きください。「II 地域とつながる高校づくり」について、4ページの1の地域と密接に結び付いた取組の推進についてですが、(1)の社会に開かれた教育課

程の実現に向けた地域住民の参画として、学校と地域の連携・協働をより一層推進するため、コミュニティ・スクールの導入やコンソーシアムの整備、地域コーディネーターの配置など、学校や地域の実情に応じた推進体制の構築に取り組み、社会に開かれた教育課程の実現に向け、地域の自治体や関係機関等と連携・協働し、地域の実情を踏まえた特色ある高校づくりを推進することとしていますが、地域コーディネーターについては、市町村が任用する地域コーディネーターや地域おこし協力隊などと連携していくことを想定し、道での予算措置については、今後検討していく考えであることから、「推進」していくという記載としました。

次に、5ページの2の将来を見据えた地域とともに高校づくりを考える仕組みの構築についてですが、誤解を与える表現との御意見をいただいたことから、「高校づくりを地域とともに考える仕組みの構築」と修正しました。

続いて、3の地域連携特例校の充実では、「地域連携特例校」という名称は、高校の存続があたかも特例的、かつ、時限的に認められているかのような印象を抱かせ、地域における入学確保対策にも影響を及ぼすとの意見が関係団体からあったことから、「名称の変更」を検討しております。

地域の教育資源を積極的に活用するほか、遠隔授業により質の高い授業を確保するといった「地域連携特例校」の趣旨をより一層浸透させていきたいと考えており、事務局としては、「特例」を削除し、「地域連携校」とする案を考えております。

地域とつながる高校づくりについての説明は、以上です。論点①として設定した地域連携特例校の名称変更を中心として、御意見等いただきたいと考えております。よろしく申し上げます。

#### (間嶋部会長)

- 主に論点①地域連携特例校の名称変更について、「特例」を削除した「地域連携校」という提案です。これについてまず御意見をいただきたいと思っております。御意見のある方は手を上げるかズームのリアクションなどを活用していただくようお願いいたします。裕委員お願いします。

#### (裕特別委員)

- 町村会として、「地域連携特例校」の名称については、あまりふさわしくないという要請をさせていただいたところです。そして今回、道教委の判断で「地域連携校」とするという考えについては、本来であれば普通の高校でよいのではないかとも思いますが、そうならない中にあたっては、私どもはよろしいのではないかと考えております。以上です。

#### (間嶋部会長)

- 裕委員、ありがとうございます。他に御意見がありましたらお願いします。篠原特別委員お願いします。

#### (篠原特別委員)

- 前回、「地域キャンパス校」を「地域連携特例校」に名称変更した経緯も、本校があつてそこに附属するというようなニュアンス、誤解を持たせるという御意見から変更した経緯があつたということを思い出していましたが、今回、さらに「地域連携特例校」を運用した限りではそういう誤解を拭い去れないということで前向きに変更するというのであれば、これは賛成すべきと考えています。

裕委員からもあつたように、すべて地域連携校でよいのではないかというような御意見についても私も同感です。本来であれば、北海道の小規模高校は1間口校も3割に上るような数になっており、もはや例外的な位置付けではないだろうという趣旨から、これは名称の意味では

なく、1間口校に対する支援策を、地域連携特例校だけでなく広めるというような意味合いを持ってよいだろうという意見を持っています。今回、名称の変更に関しては賛成しますが、その上で、従来から地域連携特例校に行ってきた支援策を、小規模校全体に拡充することができないかということも意見として申し上げさせていただきたいと思っています。そのことを素案にどう盛り込めるかの具体策、文言のことも含め、事務局に意見をいただきたいと思います。以上です。

(間嶋部会長)

- ありがとうございます。1間口だけではなく、2間口や3間口の小規模校についても、支援を配慮してほしいという御意見でした。他に御意見がありましたらお願いします。

(各委員)

- (意見なし)

(間嶋部会長)

- それでは、名称の変更については特に異論はないということでしたが、若干、篠原特別委員から付け足しの御意見をいただきました。論点①以外で、今説明を受けた部分で何か御意見のある方は挙手またはリアクションをお願いします。篠原特別委員お願いします。

(篠原特別委員)

- 資料1の4ページ1(1)、地域コーディネーターの配置にかかる文言の修正というところで、資料の御説明をいただいたときに、予算措置の話に言及されていたと思いますが、文言の変更の意味が素人目にはわかりにくいので、「推進」を加えたことで、施策としてより強めていくという強調の意味での変更になるのか、予算措置の約束ができていないので慎重な表現に変えたという趣旨なのか、確認させていただきたいです。

私の意見としては、これは道庁側へ言うべきことなのかもしれないですが、是非進めていただくべきことであると申し上げたいです。現状はその予算を町村等で負担されている部分もあるため、道と町村との間でその調整の話をクリアすることについては今後の話ということによいと思います。まずは、ここでは施策をさらに強調するような意味合いなのかどうかについて確認をさせていただけたらと思います。

(間嶋部会長)

- 事務局の方で回答をお願いします。

(山城高校教育課長)

- これについては、先ほど篠原特別委員からの質問にもあったとおり、元の素案では「配置や」というように、あたかも確定しているような誤解を招く文言になっていたものを、方向性としてそれを推し進めていくという道教委の考え方を示すため、「配置の推進や」と文言修正をしたところです。

(篠原特別委員)

- そうしますと、期待するということで意見とさせていただきます。頑張ってくださいと思います。

(間嶋部会長)

- 例示として、地域おこし協力隊などの文言も出ていましたが、道教委の方で、財政措置についてもコーディネーターの配置についても積極的に進めていただきたいと思います。他に御意見がありましたらお願いします。松岡特別委員お願いします。

(松岡特別委員)

- 私は今、当別高校のコーディネーターをやらせていただいておりますが、「コーディネーターの配置の推進」について、これは市町村に任せるのか、「推進」という文言が入ることによって、市町村はやらなければならないという感覚になるのか、どういう風にやっていくのか等、私は来年度で3年間の任用が終わるのですが、その後どうしていかが見えない状態です。例えば、雰囲気醸成されているのであれば、必要ということで市町村としては地域コーディネーターを配置したい、引き続きやっていこうという流れになるのか、どのような流れになるのか聞きたいです。

(間嶋部会長)

- 考え方ということで、事務局で回答があればお願いします。

(山城高校教育課長)

- これは道教委の指針ということもありますが、地学協働を国の方でも進めていくという流れの中で、道教委だけが負うものでもないですし、市町村だけが負うものでもありませんので、方向性としては今後とも市町村も配置の推進を進めてほしい、また、道教委としても予算措置をし、配置の方向に向かっていきたいという内容が含まれています。

(松岡特別委員)

- わかりました。

(間嶋部会長)

- ありがとうございます。是非とも道教委の方でも予算措置が可能となるようにお願いしたいと思っております。他に御意見がありましたらお願いします。

(各委員)

- (意見なし)

(間嶋部会長)

- ないようですので、Ⅲの説明をお願いします。

(山城高校教育課長)

- 引き続き、「Ⅲ 活力と魅力のある高校づくり」について説明します。8ページに記載の普通科新学科の設置についてですが、昨年9月の公立高等学校配置計画において、釧路湖陵高校と大樹高校の普通科を学科転換し、普通科新学科を設置することを公表しておりますが、現在、導入に向けた研究を進めているところであることから、検討段階とする文言整理を行いました。次に、9ページの専門学科(職業学科)について、産業教育振興法に基づき、道教委の附属機関として設置している北海道産業教育審議会において、令和2年12月に道教委が諮問した、「新時代に対応した資質・能力を育成する本道産業教育の在り方について」の審議結果が取りまとめられ、先月答申が提出されたところです。ついては、当該審議結果を踏まえて、どのように職業教育の充実を図り、地域を担う人材を確

保するのかを改定版指針に反映するため、外部連携の充実、教育環境の充実及びデジタル化への対応という視点から、地域を支える最先端の職業人の育成に向けて、「ICTの活用などによる教育活動の充実に努めること」、「地域産業界だけでなく、大学等と相互連携を図った上で協働することができるよう、社会に開かれた教育課程の推進に向けて取り組むこと」について記載したところです。

このほか、素案において、学科の並び順が学習指導要領の順になっていないこと、それぞれの学科について、記載内容が分かりにくい表現であるとの御意見があったことから、文言整理を行っております。

総合学科、単位制、アンビシャススクール、定時制課程・通信制課程についても、分かりにくい表現があったことから、文言整理を行っております。

活力と魅力のある高校づくりについての説明は、以上です。ここでは、論点となる事項は設定していませんが、御意見等あればお願いします。

#### (間嶋部会長)

○ ありがとうございます。Ⅲについては文言修正ということで、特に論点はないということですが、御意見等がもしありましたらお願いします。

#### (各委員)

○ (意見なし)

#### (間嶋部会長)

○ それでは、もしお気づきの点がありましたらまた後ほど触れていただきたいと思います。次、「Ⅳ 公立高等学校配置計画」について、事務局から説明をお願いします。

#### (山城高校教育課長)

● それでは、15ページからの「Ⅳ 公立高等学校配置計画」について説明します。16ページの地域連携特例校及び農業、水産、看護又は福祉に関する学科を置く高校の取扱いについて、関係団体などからは、「道教委も存続に向けて積極的に力を尽くしていただきたい」、「期間を限定することなく、これまで同様、堅持すること」といった御意見等をいただいたところです。道教委としては、指針に係る記述について、取り組む主体は道教委であり、地域と連携して取り組むことを明記し、「高校の更なる特色化・魅力化、入学者確保に取り組むこと」、「取組内容やその効果などに大きな変動がある場合には取組期間の見直しを検討すること」といった集中取組期間の定義の加筆を行うことを検討しております。

また、素案では、再編整備の要件を、「集中取組期間経過後に生徒数の増が見込まれない場合」と、「第1学年の在籍者数が2年連続10人未満となった場合」としてありますが、前者の「生徒数の増が見込まれない場合」について、「直近の生徒数だけで判断しないでほしい」、「削除すべき」との意見も出ていることから、「記載内容の見直し」を検討しており、これらのご事情について、論点②として委員の皆様から御意見をいただきたいと考えております。

次に、定時制課程について、素案では、「5月1日現在の第1学年の在籍者数が3年連続で10人未満となった場合は、再編整備を進めます。」と記載しておりましたが、論点②と同様に、「直近の生徒数だけで判断しないでほしい」、「それぞれの地域の実情を考慮していただきたい」といった御意見をいただいたことから、「記載内容の見直し」を検討しており、このことについて、論点③として委員の皆様から御意見をいただきたいと考えております。

公立高等学校配置計画についての説明は以上です。よろしく申し上げます。

#### (間嶋部会長)

- ありがとうございます。論点2つ挙げられています。

1つ目は、地域連携特例校等の再編整備の留保ということで、パブコメ等の意見では、私も目を通しましたが、「2年連続で20人未満となった場合、直ちに再編対象とはしないほしい」という意見が圧倒的でしたが、このことについて、委員の皆様から御意見をいただきたいと思っています。よろしく願います。篠原特別委員願います。

#### (篠原特別委員)

- 今、事務局から説明のあった、パブリックコメントを受けて修正を検討するかという論点ですが、間嶋部会長からもあったとおり、パブリックコメントの意見の大半を占めるのは、この規定をもっと弾力的に運用してほしいという趣旨なのだろうと受け止めています。

やはり、地域連携校となった場合も、再編をかなり厳格な基準で判断していくということよりは、地域の取組を支え、地域の子どもたちの進学の手助けや、地域と連携した、学校と地域がともに進んでいくような学校づくり・まちづくりを、学校を拠点としながら1つ手がかりとしながら進めていくということが、これから先、道教委の施策としても検討いただきたいことだと思っています。

私の個人的な意見を踏まえても、パブリックコメントの意見を是非反映させていただきたいという思いです。具体的には、再編基準を、素案にあったような「2年連続」「直ちに」というところを緩めるような基準に変更いただきたいという意見になります。

#### (間嶋部会長)

- ありがとうございます。それでは、裕特別委員願います。

#### (裕特別委員)

- このことについては、私は道教委が前向きな、一歩進んだ考え方を持っていただいたと思っています。先ほど、「地域連携特例校」を「地域連携校」という形で、新しい名称にしたいという話もありましたが、小規模校が今後存続していく中で、道教委が取り組んでいますT-baseは非常に有効だと思っています。これは一方通行ではなく、それぞれ学校の先生とも連携しながら、あるいはそれぞれ市町村で中高が連携して、そして地元の高校が存続するようという努力をしている訳であるので、キャンパス校のときの本校との連携を進めた形で、この広い北海道でいかにその地域に高校を存続するかという、道教委の取組に沿ったものと私は評価しています。

ただ、今の少子化、特にこの2年ほどコロナで出生数が激減している中で、これは全国的な話でもあります。この子どもたちが高校に行く時代になったときにはどうなるのだろうと心配するぐらいの状況であり、当然、人口減少とともに高校に進学する生徒数は減るので、道として地域と協議をして進めるという考え方を盛り込んでおり、私はこの考え方は非常に良いのではないかと考えています。

#### (間嶋部会長)

- ありがとうございます。他に御意見はいかがでしょうか。

篠原特別委員からも少し弾力性を持った取組をという御意見、また、裕特別委員からは素案については一定程度の前進があったという評価の御意見でした。

私からも個人的に意見を言わせていただきたいと思っています。従来の指針よりも一定程度前進していると私も思いますが、さらに、地域の実情や実態等を勘案しながら判断するという方向性を強めていただければありがたいと思っています。よろしく願います。

それでは山城高校教育課長お願いします。

(山城高校教育課長)

- 御意見ありがとうございます。道教委といたしましても、今回、特に遠隔授業配信システムが整ったということ、また、高校の所在するあるいは近隣の市町村からの様々なサポート等、こういった教育環境が整ったということも今回の指針の中に盛り込み、ルールを変えていくことの根拠としています。

また、裕特別委員からもあったように、1つの町だけではなかなか高校、教育が立ち行かないため、圏域という考え方で、その地域で高校教育をどう育てて行くかという視点で新しい指針の中にも盛り込んでいますので、今まで以上に遠隔授業の活用、そして自治体との連携、大きな視点での高校教育のあり方について、検討の場を設けていきたいと考えています。どうぞよろしくをお願いします。

(間嶋部会長)

- ありがとうございます。北海道は他府県と比べても非常に広域分散型であり、それに対応した施策が当然求められると思いますので、引き続き、道教委におかれましてはT-baseや新しいICTの活用も含めた取組をお願いします。

それでは、原田特別委員お願いします。

(原田特別委員)

- 今の論点②、③の記述を素案から全くなくすということでしょうか。それとも、新たに配置の考え方が示されるということでしょうか。

(間嶋部会長)

- 事務局で回答をお願いします。

(山城高校教育課長)

- ここには今、記載はしていませんが、論点で示した方向性といただいた御意見を踏まえ、新たな文言修正の内容が載る形になります。

(原田特別委員)

- それでは、後ほど見せていただけるということになるのですね。

(山城高校教育課長)

- 決定次第、委員の皆様には配付します。

(原田特別委員)

- わかりました。

(間嶋部会長)

- ありがとうございます。決定次第、早急に記載をお願いします。

それでは内容的には若干重複するところもありますが、③の定時制課程について、3年連続10人未満で募集停止という部分に対して、パブコメ等からも個々の学校事情を勘案し、判断基準を機械的に定めるべきではないという御意見をたくさんいただいているようですが、委員の皆様から御意見がありましたらお願いします。篠原特別委員お願いします。



(篠原特別委員)

- パブリックコメントの意見に私も賛同しています。定時制高校の小規模化、実際にはなかなか入学者が少ないという実態はわかっていますが、各地域で有朋高校の通信制に通っている生徒たちの通学や学習の機会を小規模校の定時制高校の先生たちが支えているという実態も踏まえると、入学者だけで定時制高校の配置の方針を考えること自体が、情報・材料としては不足している部分もあるのではないかと思います。

先生たちは週末を使い、有朋高校通信制の生徒たちとの関わりを持っているという話を聞くこともあります。やはり、各地域に計画的に配置されてきた定時制高校の意味をしっかりと意識するということが重要だと思いますと、この文言をそういう趣旨で修正していただきたいという意見になります。

(間嶋部会長)

- ありがとうございます。他に御意見ありませんか。

(各委員)

- (意見なし)

(間嶋部会長)

- また後ほど振り返りますので、もし御意見がありましたらお願いします。

今、篠原特別委員からもありましたが、募集停止の判断基準については幅をもう少し持たせるという方向での意見があったということを確認し、次に進みたいと思います。

それでは「V 教育諸条件等の整備」、「参考資料」について、事務局から説明をお願いします。

(山城高校教育課長)

- 18ページの「V 教育諸条件等の整備」についてですが、道外入選の取扱いについて、誤解を招く表現であったことから記載方法を見直したところです。

次に、「参考資料」についてですが、20ページの「学校規模」の今後の考え方について、素案では、1学年4から8学級という一定の学校規模を求める考え方は「変わらない」と記載していましたが、地域の実情を考慮し、「1学年4学級以上の学校規模を確保することは今後も高校配置の検討に当たっての重要な観点の一つ」と記載内容を修正したところです。

教育諸条件等の整備及び参考資料についての説明は、以上です。ここでは、論点となる事項は設定しておりませんが、御意見等あればお願いします。

(間嶋部会長)

- ありがとうございます。ここでは論点はないということでしたが、パブコメ等で寄せられる意見の中で、学校規模についての扱い、特に今事務局からもあった「1学年4から8学級」の文言について、「再編対象」から「重要な観点の一つ」と変化している点についてかなり御意見が寄せられているので、論点ではありませんが集中的に御意見を求めていきたいと考えているところです。

私から意見を述べさせていただきますが、教職員の定数などについては、高校標準法という法律があり、それに縛られてしまう分は致し方ないところです。ただ、この高校標準法が作られたのは高度経済成長真っただ中である昭和36年であり、その頃は道内にも1学年4学級から8学級という高校がたくさんありました。戦後のベビーブームの影響もあり、法律の趣旨と実態が合っていましたが、先ほど裕特別委員からもあったように、少子高齢化が進み、

北海道はその課題先進地であり一層少子高齢化が進んでいるという実態から見ると、現行の高校標準法が北海道の実態、北海道民の思いとはかなりずれたものになってきているということがあるので、これは道教委のみならず、道内で、1から3学級のような小規模な高校でも十分持続可能になるような取組を進めていく必要があると考えています。そのような法令の改正に向けた部分まで言及し、指針に盛り込んでいただけるとありがたいです。

個人的な考えを先に述べさせていただきましたが、他に御意見をお持ちの方がいましたらお願いします。篠原特別委員お願いします。

#### (篠原特別委員)

- 間嶋部会長の意見に賛同する意味で、今回の文言修正によって意味合いがどう変わるのかが少しわかりにくかったので伺いたいです。つまり、考え方は変わらないものという表現を「重要な観点の一つ」と言い換えたことで何が意味合いとして変わるのかということがいまいち伝わりきらないという部分がありました。

4学級から8学級だけにこだわっているわけではないということを言葉で表現しようとしたのかという私なりの解釈がありますが、その意図を確かめたいのと、もしそのとおりであれば、これは様々なところとの折衝の中での修正だと思うので難しいことであるかもしれませんが、間嶋部会長が強調されたような、1から3の学級数の教育的な意味や小規模教育の価値についても資料の中で触れられるようなところを設けていただきたいと思います。「4学級以上とする理由」、「8学級以内とする理由」以外に1学級から3学級に関する、教育の積極的な意味合いを追加するようなことが可能なら、北海道教育委員会として4学級から8学級だけにこだわって高校配置計画を考えようとしている訳ではないということが伝わりやすくなるのではないかと意見をさせていただきます。

#### (間嶋部会長)

- 意図に関して質問がありましたので、事務局からお願いします。

#### (岡内道立学校配置・制度担当課長)

- 「4から8学級」の表現を変えたことについて、篠原特別委員のおっしゃるとおりの趣旨です。「4から8学級」の持つ意味、それ自体の重要性・必要性は変わらないということを表現するため「変わらない」と書きましたが、道教委の「4から8学級がよい」という価値観が変わらないという伝わり方をしてしまいました。

実態として地域連携特例校や1間口の学校もあり、決して4から8学級にこだわった運用ではなかったものの、「4から8学級」自体に意義はあるがその他がだめだということではなく、様々な種類の学校、それぞれの地域で必要とされる学校があり、それに応じて規模も様々でよいという表現をしたく、よりわかりやすく「重要な観点の一つとする」としたところ です。

ここまで、「4から8学級」の何がよいのかということで皆様からお話をいただくことが多かったため、参考資料の方も「4から8学級」の意味ということを中心に書いています。篠原特別委員からお話いただいたとおり、規模は様々でよいという趣旨ですし、我々も地域で御説明する際に、小規模校のメリットを説明しています。できあがりの形は今ここでは申し上げられませんが、例えば今の資料の中の一定の規模の利点の隣に、小規模校ならではの利点を少し書き、どちらもそれぞれ良いところ・悪いところがあると並べて書くことができないかなど考えてみたいと思います。

#### (間嶋部会長)

○ ありがとうございました。篠原特別委員、何かございますか。

(篠原特別委員)

○ はい、是非お願いしたいと思います。

(間嶋部会長)

○ ありがとうございました。是非、文言については、小規模校の利点なども相対化できるようにお願いします。他に御意見ありますでしょうか。

(各委員)

○ (意見なし)

(間嶋部会長)

○ ないようですので、IからVも含め、全体を振り返って何か御意見や付け足しなどありましたらお願いします。原田特別委員お願いします。

(原田特別委員)

○ 先ほどから地域連携校の話があり、また、連携に協力する高校の話も5ページに書いてあります。そして、遠隔授業配信センターについても書いてあります。今の時代、そういった遠隔で授業を行うということは大切になるのだらうと思います。そうしたことで、小規模の高校の授業等を補うということはあるのだらうと思いますが、ただ、高校に通った子どもたちが同期の子どもたちとのふれあいや、あるいは同期の絆というような、また、協力校との繋がりという中で同じ歳の子どもたちが繋がりを持てるのだらうかということが心配になります。そういう意味で、5ページに生徒会交流等と書いてありますが、そうしたことを義務づける訳にはいきませんが、1つの高校の活動として、運営として行っていくことが、その子どもたちにとっては大切なことになるのではないかと考えています。

どこにどのように表現するのかわかりませんが、感想として述べさせていただきます。

(間嶋部会長)

○ 原田特別委員ありがとうございました。学習の部分を含め、または学習の部分から離れ、高校の生徒たちの活動を幅広く保障していく手立てを教育行政だけでなく地域住民もバックアップして行く必要があると思いますが、近江特別委員、何か浦幌での取組に関連するようなことがあれば御意見をお願いします。

(近江特別委員)

○ 1月5日に、京大の前総長の山際先生と2時間程度ディスカッションさせていただく機会をいただきました。これは、Society5.0時代テクノロジーを活用した様々な可能性が見えてきている中で、どこまでテクノロジーを使うことが人類学的に可能なのか、人類学の権威である山際先生から様々なアドバイスをいただきました。その中で、私として大変学ばせていただいたことがいくつかありましたが、ICTテクノロジーを使った、手段としての教育はこれから様々な人口減少、人手不足の中で有効的だと改めて思います。ただ、今、原田特別委員から話があったように、きちんとした身体的な繋がりなしにテクノロジーだけに委ねる危うさを山際先生から教えていただきました。あくまでもテクノロジーは身体的な繋がりを補完する、もしくはそのコミュニティの中では完結しないものを横に繋ぐための有効的な手

段であり、テクノロジー、ICTが目的になってしまうような形になると非常に危ういと私自身も思った次第です。ICTを目的ではなく手段として捉えながら、どう子どもたちを育てていくのか。そこには間違いなく、身体的繋がり、リアルな繋がり、リアルな交流、対話が非常に大事だと思います。

具体的な話ではないですが、何かそのようなことを大事とするメッセージを盛り込むことはできないかと思いました。以上です。

#### (間嶋部会長)

- 近江特別委員ありがとうございました。大変貴重な御意見、参考にさせていただきます。それでは山田特別委員、御意見お願いできますか。

#### (山田特別委員)

- 話を聞いていて、全般的に私も大賛成ですが、はっきりした項目ではなくフuzzyな文言で残していったときに、何かを決めるときにはっきりしたものにならないのではないかと不安が残りました。それから、すべてのものに夢・希望を与えるのはよいのですが、果たして財源は大丈夫なのか。その確保がないまま「これもやります」「あれもやります」となった部分が、実現可能なのかと思う部分もあります。

さらに、文科の初等中等教育分科会の特別会で、高校の存在意義とは何なのか、高校の共通性の確保は何なのか、どのような多様性の対応が必要なのかなどと問われていることもあり、そういった点を考えると、やろうとしていることはすべて正しいのだろうけれど財源がなく、そして文言に関してはどっちにもとれるような形になってくると、最終的に決めごとをするとき少し難しくなるような部分があるので、少し不安が残るという感想でした。以上です。ありがとうございます。

#### (間嶋部会長)

- ありがとうございます。大変厳しいですが大事な議論の部分かと思いながら聞かせていただきました。

それでは、全体を通してということもありますが、今日は最終回の会議ということですので、本日を含め、6回にわたって様々な観点から委員の皆様から御意見をいただき、活発な議論となったと感じています。一昨年12月に本専門部会が設置され、議論を重ねてきましたが、本日が最後の会議となっていますので、御感想でも構いませんので、それぞれの委員の皆様からひとことずつ頂戴したいと思っています。それでは篠原委員、いつも大変活発な御発言がありますが、何かコメントがありましたらお願いします。

#### (篠原特別委員)

- これまで北海道教育委員会の新しい高校づくりの指針の改定に関わり、私なりに、批判的なことも含めかなり発言したつもりはあるのですが、私が思っている以上に北海道教育委員会の方も私がライフワークに持ちたいと思っている小規模な高校の価値をどう高められるかということに関わって積極的に御検討いただき、その中で様々な折衝が続けられているということもこういうやりとりを通じて、把握・承知してきたところです。

財源の問題や様々な関係各所との調整ということで、御苦勞も多いかと思いますが、北海道は日本全国の文部科学省を中心とする教育政策においてもかなり例外的な取り扱いをしなければ、北海道の特殊性を活かした教育の振興はなかなかしにくいという思いがあります。北海道としても独自性を打ち出していくような気概で是非がんばっていただきたいという思いです。私も、道教委にお任せしたいという訳ではなく、一緒にそういう趣旨で協

力できる部分を今後も取り組みたいと思っています。今後とも期待しています。皆様とも議論をさせていただきましてありがとうございました。

**(間嶋部会長)**

- ありがとうございます。まず、会場にお集まりの委員の皆様からコメントをいただき、終わったらオンラインの委員の皆様コメントをいただきたいと思います。それでは、北海道PTA連合会の萩澤委員をお願いします。

**(萩澤委員)**

- 今まで色々な会議に出させていただきましたが、当初よりよくなってきているのではないかと思います。1つ心配なのは、先ほども話に出ていたICTがどこまで普及するのかわかるころで、前回、ズームで会議に参加させていただきましたが、道教委の皆様の様子画面面上では全然わからず、どこを汲んでくれるのかというニュアンスもなかなか拾えないので、対面も非常に大事だと感じているので、ICTが大半を占めるようになったら子どもたちの教育上心配だという部分はあります。

必要に応じて、ICTは活用できるので、割合を考えながらICTを積極的に導入しながら、対面も大事にしながら進めていただけたらありがたいと思います。

**(間嶋部会長)**

- ありがとうございます。それでは当別青年会議所の松岡特別委員をお願いします。

**(松岡特別委員)**

- 6回、ありがとうございました。普段こういった会議に呼ばれることはあまりないので、よいきっかけをいただいたと思います。先ほどコーディネーターに関して質問させていただきましたが、道と市町村で推進しているのであれば、どちらもあまりお金は出したくないのでおそらくお金は出ないだろうと思っています。じゃあどうしていくのかを考えたとき、実際、地域でグループを作っていないと恐らく無理なのだろうなと考えています。

青年会議所の活動、運動は基本的に何をやるか、何を発案するかであり、札幌西高の藤村校長もいらっしゃいますが、札幌西高の総探の時間を見学させてもらい、当別出身の女子生徒が当別活性化計画というものを発表していて、そのような繋がりからオンラインで会議をし、当別をどのように盛り上げるか、まちづくりを始め、当別高校の問題をどのように考えるかを、高校生・大学生・色々な大人でグループを作り、彼女が総探の授業の中でやっていることを私たち大人もサポートしました。その経験が1つの価値になるということで、予算やお金の問題ではなく、どういうふうにしていくかを、これも近江特別委員と話を聞いていて、こんな形がよいとなりました。そのような色々な繋がりをいただき、やるべきことをしっかりと自分もやっていきたいと思いを新たにさせていただきました。

**(間嶋部会長)**

- ありがとうございます。会場の方は終わりましたのでオンラインの方も進めていきます。山田特別委員をお願いします。

**(山田特別委員)**

- 第1回から6回まで会議に参加させていただきましたありがとうございます。とても勉強になりました。これから私学にも活かせるように頑張っていきたいと思っています。ありがとうございました。

**(間嶋部会長)**

- ありがとうございます。それでは、北海道PTA連合会の金田特別委員お願いします。

**(金田特別委員)**

- これまで6回の会議に参加させていただきありがとうございました。私はなかなか知識も経験もなく、皆様のお話を聞いてなるほどと、非常に勉強させていただいたと感じています。  
先ほど財源の問題や変わらない法律の問題がありましたが、子を持つ親の立場としては、実際に高校に通う子どもたちの気持ちを第一に考えていただき、子どもたちがより楽しく高校に通えるように親としても精一杯頑張っていきたいと思ひますし、道教委の皆様にも子どもたちのことを第一に考えていただき、柔軟に積極的に行動していただきたいと思ひます。  
ありがとうございました。

**(間嶋部会長)**

- ありがとうございます。続きまして、北海道高等学校PTA連合会金井特別委員お願いします。

**(金井特別委員)**

- 北海道に住んでいながら、地方の高校について知らないことが大変多く、今回参加させていただき、大変勉強になりました。ありがとうございました。

**(間嶋部会長)**

- それでは十勝うらほろ楽舎の近江特別委員お願いします。

**(近江特別委員)**

- 改めて、今までのこの部会であれば恐らく私が委員のメンバーに加えていただくことはなかったかなと思ひながらずっと会議に出させていただけました。まさしく、どこかの表現で「異次元の」というような言葉が使われていたりしますが、お金がなく正解もない中で、色々な判断をしていかなければならない。正解があれば論理的に今までの経験から話せる訳ですが、そういうことがない中でこれから子どもたちは社会に出ていき学びを深めていきます。ただそれはおそらく子どもたちに限らず、我々が様々な判断をしていく上でも同じことがきっと起きているのではないかと思ひます。  
コロナ禍でも同じであると思ひますし、お金がない中で先行きが見えない中で、我々は子どもたちのために向き合わなければならない、でもどうしたらよいか答えがない中で対話をするしか恐らくないのだと思ひます。きっととても大変で難しいのかもしれないですが、諦めずに一歩ずつ、ただこれまでのように行政に依存するだけではなく、我々の立場でも何ができるか引き続き考えていきたいと思ひますし、今日で会議は終わりかもしれませんが、皆さんと可能であれば情報交換等をさせていただきながらできることを持ち寄って、高校生の未来のためにできることをやっていくしかないと感じた次第です。どうもありがとうございました。

**(間嶋部会長)**

- ありがとうございます。それでは恵庭の原田特別委員お願いします。

**(原田特別委員)**

- 欠席が多くお役に立てなくて申し訳ないと思っています。会議の中で様々な御意見を委員の皆様、それから私もお話ししましたが、それをしっかりとこの指針の中に丁寧に取り込んでいく作業をしていただき、道教委の皆様は素晴らしいと感心しました。本当に御苦労様でした。

この会議に出席し、自分の高校時代を思い出しながら考えていました。もう50年以上前の話ですが、高校の時のクラスの友達やあるいは先生方、すべてが私にとって刺激でした。様々な友達がいて、部活動で様々な先輩や後輩がいる、そうした刺激を感じるのが高校時代なのだろうと思います。そうしたことを今の子どもたちにも体験させる、そういったことが大切なのではないかと。そのためには、色々な仕組みが必要なのだろうということを今考えています。つまらないことをお話ししましたが、今回最後でありますので私の感想を述べさせていただきます。ありがとうございました。

#### (間嶋部会長)

- ありがとうございます。それでは裕特別委員お願いします。

#### (裕特別委員)

- 皆さん御苦労様でした。私たちは小さな町村を代表して話をしなければいけないということで、最後の方にICTの話が皆さんからあり、対面の方が良いなどというような話もありましたが、こういう会議であっても私の町から札幌へ行くには3時間半、往復7時間ですから、このwebというツールは非常に有効なものだと思います。どうしても札幌中心で物事は進みますので、これは私も否定できませんが、高校の在り方や、一方では病院の在り方も同じようなことがあり、どうしても人口があるところで成立すると、それでよいのかということです。では、乳牛や漁業を中心に産業としてがんばっているところは、高校も医療もなくてよいのかというような話になってしまうので、町村としてはそのジレンマの中でどうやって学び舎を存続しながら産業を維持しながら町を維持するという、非常に難しい命題を戦っているということを御理解いただけたかと思います。

これは、それだけが正しい訳ではなく、子どもたちのことを考えたらある程度の人数のところで勉強してもらいたい。ただ、今の子どもたちは小学校からICTを使っており、LINEで普通に会話をする子どもたちが増えてきている中で、我々が思っている高校生とは違う部分ももう少し我々も勉強しながら、高校教育というものを考えていかなければならないと思った次第です。とりとめのない話になりましたが、大変お世話になりました。ありがとうございました。

#### (間嶋部会長)

- ありがとうございます。順番が前後して申し訳ありませんが、藤村特別委員お願いします。

#### (藤村特別委員)

- 去年の4月に着任しこのメンバーに入れていただきまして、本当にお世話になりました。高校にいる身としては、ここに書かれているいろいろなことが実際にはどうなのかというのは非常に難しい面があります。ただ、何かを決めていかなければこのあと進んでいきませんので、しっかりここで指針を作ってください、これからの高校づくりを進めていただければと思います。最後に皆さんからも声が出ていましたが、北海道のこれからの高校生のための高校であるので、私のようなもう退職するような人間がいろいろというよりは、もっと若い、子どもたちの声を聞いてあげられればと思います。ありがとうございました。

**(間嶋部会長)**

- ありがとうございます。部会長の間嶋です。部会の会議については大変お世話になりました。またこの機会に、改めて高校教育の見方について、かなり根本的に、頭を使い勉強させていただきました。委員の皆様、事務局の皆様本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。

現場の校長から教育長という立場に変わり、高校教育は教育行政のみならず、地方創生に密接に関わっているということを今痛感しています。これからも高校教育には、地元の高校を始め、いろいろ関わったりコミットしたりする場があるのかと思っております。またどこかでお会いできれば嬉しいと思います。

**(田原課長補佐)**

- 間嶋部会長ありがとうございます。それでは私から今後の予定につきまして、委員の皆様にお知らせします。本改定版指針につきましては、2月16日に開催予定の道議会、文教委員会で案を報告しまして御議論いただいたあと、3月末に開催予定の教育委員会において決定して参りたいと考えているところです。それでは、本部会の閉会にあたりまして、学校教育局長堀本からご挨拶申し上げます。

**(堀本学校教育局長)**

- 閉会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。本日は、お忙しい中、本部会に、御出席いただきありがとうございました。

一昨年の12月に、改定版の指針を策定するため、本専門部会を設置し、間嶋部会長を始め、委員の皆様には、長きにわたり様々な視点から御議論をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

皆様に御議論いただいた改定版指針については、今後、道議会での御議論等を経て、3月に決定する予定としておりますが、社会の劇的な変化や、生徒の興味・関心、進路希望等の多様化、中学校卒業生数の減少など高校を取り巻く環境の変化に対応し、未来を担う人材を育む教育機能の維持向上を図るため、これからの高校づくりに当たっての基本的な考え方と具体的な施策を示すものでありますことから、道教委といたしましては、改定版指針に基づき、引き続き適切な高校配置に努めるとともに、地域の特性を生かした、活力と魅力のある高校づくりを進めてまいりたいと考えております。

また、皆様からいただいた御意見などにつきましては、本指針の策定と併せて、今後の高校づくりに活かしてまいりたいと考えております。

委員の皆様には、今後とも、本道の教育行政の推進に当たり、御協力と御支援をいただきますようお願い申し上げます。誠に、ありがとうございました。

**(田原課長補佐)**

- 本日の会議をもちまして、現行の「これからの高校づくりに関する指針」の検証、改定に向けた調査・審議を実施するために設置しました「高等学校専門部会」を終了とさせていただきます。これまでの御支援、御協力に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。